

PRESS RELEASE

同時発表:

国土交通記者会・国土交通省建設専門紙記者会・
宮城県政記者会・仙台市政記者会・東北電力記者クラブ・
東北専門記者会・大阪市政記者クラブ

森トラストグループ総合震災訓練実施レポート

～震災から1年を迎え、より強固な「グリッド型BCP」の実現へ～

森トラストグループは、東日本大震災から間もなく1年となる3月1日に、総合震災訓練を実施いたしました。

森トラストグループでは、東京（森トラスト本社）の震災対策本部と主要施設ならびに仙台（森トラスト仙台支店）・大阪（リーガロイヤルホテル（大阪））をWEB会議システム等を用いた独自のネットワークシステムで連結し、全国94施設を効率的に管理できる体制（「グリッド型BCP（事業継続計画）」）を構築しています。今回の訓練では、震災ポータルサイトを利用した被害情報共有、帰宅困難者対応など、各種想定事例に対応するシミュレーションを行い、「グリッド型BCP」の有効性を実証いたしました。

<総合震災訓練概要（実施日2012年3月1日）>

首都直下型地震（M7.3）が冬季平日に発生し、震度6強の揺れが都心部で発生することを想定。当社グループ社員約1,500名が参加し、停電・断水・公共交通機関断絶といった過酷な想定のもと、社員の安否確認から帰宅困難者対応に至るまでを実践しました。

特徴

- ①震災対策本部の即時機動体制（5分で編成）
- ②東京・仙台・大阪の3拠点を中心とした、94施設連携システムによる相互補完体制
- ③各種ITツールをはじめとしたツールの多重化による通信確保、即時の情報共有
- ④充実した設備による震災時のインフラ提供
- ⑤都市を託される企業として、プロフェッショナルな人的対応

1. 安否確認訓練

- ・緊急地震速報発報確認による身の安全確保
および揺れが収まった後の社員安否確認を実施。部署・関連会社ごとに安全確保から安否確認後の報告まで一連の動作を迅速に完了。

（当社は、安否確認システムとして、携帯電話やメールを活用した、社員安否確認・情報伝達ツールを導入しています。）



安否確認システム

2. 震災対策本部訓練

(1) 震災対策本部組織

- ・東京（本社）において、地震後5分で震災対策本部を編成。
- ・関係各部署の責任者が一同に集う組織を短時間で編成することにより、会社としてのスピーディーな意思決定を実現。



震災対策本部

(2) 情報共有体制構築

- ・WEB会議システムにより、東京・仙台・大阪の3拠点および主要施設・関連会社をリアルタイムで接続。フェイス・トゥ・フェイスでのコミュニケーションを実現。
- ・震災ポータルサイトにより、各施設の被害状況を一元管理。
- ・各施設からの詳細な情報提供には、タブレット端末を利用。ライブ動画や撮影画像をWEB会議システムで共有。
- ・情報共有の手段として、衛星電話や専用通信回線の導入など、多重通信網を構築。



森トラストグループ 震災ポータル



震災ポータルサイト

3. 建物安全確認訓練

- ・専門部署による建物安全確認を実施。
- ・地震発生後、迅速かつ正確な建物安全確認を行うことは、入居者の安全確保のために必要不可欠。本訓練により、更なる対応能力の向上を図った。



建物安全確認訓練

4. 現場対応訓練（帰宅困難者対応、救護、防災設備確認等）

(1) 丸の内トラストシティにおける帰宅困難者対応訓練

- ・帰宅困難者受け入れ人数の正確な把握と安全な誘導のため、入口を限定のうえ、整理券を配布し約100名の帰宅困難者の入館管理を実施。
- ・帰宅困難者の混乱解消のため、TV報道、交通情報等の情報提供を実施。
- ・東日本大震災での対応経験を生かした物資の提供や、携帯電話充電スペースを提供。



帰宅困難者対応訓練



「TIC TOKYO」による交通情報の提供
(日・英・中の3か国語にて実施)

(2) 救護訓練

- ・テナント社員がビル内にてけがを負うケースを想定し、オフィスフロアから1階救護スペースへの搬出、救護スペースでの当社社員による初期対応および救急車到着後の救急隊への引き継ぎを実施。
- ・当社社員によるAED訓練実施し、救命技能向上を図った。
(当社は全社員に救命技能認定証の取得を義務付けています。)



当社社員による初期対応



救急隊への引き継ぎ

(3) 防災設備確認

【震災井戸】

- ・当社では、主要施設を中心に、非常時の利用を想定し、震災井戸を設置。非常時には、ビルの中水利用ならびに仮設トイレ用水としての利用が可能。
- ・ろ過装置を通しての飲料水化を現在検証中。



【仮設トイレ】

- ・丸の内トラストシティ外構部に、公共下水道管に直接繋がる仮設トイレ設置用の排水枡を10口設置。
- ・非常時には便座およびテントブースをそれぞれの排水枡に接続し、震災井戸により下水道管への流水が可能。



【非常用発電機】

- ・ 今回の訓練場所である虎ノ門 2 丁目タワーおよび丸の内トラストシティ（丸の内トラストタワー本館・N館）においては、停電時に稼働する非常用発電機を実装。
- ・ 虎ノ門 2 丁目タワー（森トラスト本社）内の震災対策本部では、非常用発電機からの電力で、照明の半数および一部壁コンセントが長時間利用可能。
- ・ 丸の内トラストタワー本館においては、非常用発電機の稼働時間を 72 時間に設定。ビル共用部の一部への電源供給のみならず、事前に申し込みを頂いているテナント企業の貸室に電源供給を行うサービスも提供。
- ・ 電気自動車向け充電設備※に接続しており、大規模災害による停電時においても、電気自動車の充電が可能。

※3 拠点（東京・仙台・大阪）の 6 施設に設置



【電気自動車】

- ・ 東日本大震災発生時、被災地においてガソリンが不足した経験を踏まえ、移動手段および物資輸送手段の多様化を図ることを目的として電気自動車を導入。
- ・ 約 4.5 時間の充電により約 100 k m 走行可能。
（当社グループは 3 拠点（東京・仙台・大阪）の 6 施設に電気自動車向け充電スペース「トラストチャージスポット」を設置しています。）



以上